

令和5年度 重点目標の成果と課題

◎ 重 点 目 標 1	(1) 重点目標	自分で考え、判断し、表現する子を育てる。(豊かな知力)
	(2) 数値による指標	「毎時間挙手し、自らの考えを表現しようとした。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3) 成果と課題 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<p>○児童アンケートによる自己評価結果 「毎時間手を挙げて自分の考えを言おうとすることができた。」 ・・・達成率85% → 88%</p> <p>【成果】ハンドサインや思考ツールなどを活用し、児童が主体的に考えるための支援を行うことで、前年度より4%増加し、引き続き高い達成率を保つことができた。</p> <p>【課題】主体的に自分の意見を発表する児童は、低学年では高いが高学年になるにつれて下がっている。自分の考え方や意見をすすんで表現する場面を意図的に設定し、その姿を教師が価値付けていく授業を今後も継続していく。</p>
重 点 目 標 2	(1) 重点目標	自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる。(豊かな人間性)
	(2) 数値による指標	「自分にはよいところがある。」「すすんであいさつをする。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3) 成果と課題 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<p>○児童アンケートによる自己評価結果 「自分にはよいところがある。」 ・・・達成率92% → 94% 「主事さんや先生に先にあいさつをする。」 ・・達成率85% → 89%</p> <p>【成果】自己肯定感については、昨年度同様に高い達成率であった。挨拶については、4%増加した。すすんで挨拶をしようとする意識は高い。代表委員会による「あいさつ運動」なども成果を上げている。</p> <p>【課題】教員だけでなく、主事や地域の方に対しても自分から挨拶することを、継続して指導していく。</p>
重 点 目 標 3	(1) 重点目標	健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる。(健やかな身体)
	(2) 数値による指標	「目標をもち、すすんで運動した。」と自己評価できる児童の割合を 85%以上 にする。
	(3) 成果と課題 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<p>○児童アンケートによる自己評価結果 「進んで外遊びをしている。」 ・・・達成率82% → 85%</p> <p>【成果】今年度から「朝遊び」を復活させたり、体育委員会が「朝遊びスタンプラリー」を行ったりした結果、引き続き高い達成率を保つことができた。</p> <p>【課題】「朝遊び」にすすんで参加する児童が増えてきた反面、全く参加しない児童も存在する。次年度は、より多くの児童がすすんで体を動かすよう、新たな取り組みを実施していく。</p>

令和6年度 重点目標の具現化のための方策

◎ 重 点 目 標 1	(1) 重点目標	自分で考え、判断し、表現する子を育てる。(豊かな知力)
	(2) 数値による指標	「自らの考えを表現しようとした。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3) 具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取組 ・評価・検証の方法等	<p>【背景】 ・児童が主体的に自分の考えを発言するために、問題意識や相手意識をもたせ、自ら解決し改善しようとする活動の工夫が必要である。</p> <p>【具体的な取組】 ・ハンドサイン、タブレット（思考ツール）の継続的な活用 ・安心して発言できる学級集団の構築</p> <p>【評価・検証の方法】 ・学期毎の自己評価カードやQ-U調査により、児童の意識や成果について評価・検証する。</p>
重 点 目 標 2	(1) 重点目標	自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる。(豊かな人間性)
	(2) 数値による指標	「自分にはよいところがある。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3) 具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取組 ・評価・検証の方法等	<p>【背景】 ・本校児童一人一人の自尊感情は高いが、友達を大切にすることについて十分ではない。</p> <p>【具体的な取組】 ・言葉についての指導の徹底 ・児童の長所やよい行動に対する、教師の積極的な価値付け</p> <p>【評価・検証の方法】 ・学期毎の自己評価カードや、「ふれあい月間」の学校生活アンケートを通して検証する。</p>
重 点 目 標 3	(1) 重点目標	健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる。(健やかな身体)
	(2) 数値による指標	「目標をもち、すすんで運動した。」と自己評価できる児童の割合を 85%以上 にする。
	(3) 具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取組 ・評価・検証の方法等	<p>【背景】 ・主体的に運動に親しむ児童と、そうでない児童に二極化が見られる。</p> <p>【具体的な取組】 ・朝遊び（7:50～8:10）の実施による体力向上への動機付け ・委員会活動を中心に児童が新しい遊びを知る様々な企画の実施</p> <p>【評価・検証の方法】 ・体力テストや縄跳びカード等の結果から、自分の成長や体力の向上を実感させる。</p>